



2023年の掛川市政を振り返って

自分自身の力量のなさに歯がゆい思いもしながら、それでも市民要望を届けたいと思い、一年取り組んできました。

どうしたら要望実現の扉が開くのか、これからも勉強して、前に進みたいと思っています。

よかったこと

大型風力発電計画の撤回

八高山尾根に計画された大型風力発電。土砂災害の誘発、クマタカ、サシバナなどの猛禽類への影響など、自然度の高い地域での環境破壊が懸念されました。地元や自然保護活動団体など広範な反対の声はアセスメントにも反映され、事業計画は撤回に。

市の再生可能エネルギーの条例も活用して、適切な再生可能エネルギー導入を拡大させたいです。

補聴器購入助成制度開始

1879名の署名も添えての請願から2年。私も議会の質問で何度も取り上げてきました。

所得制限がほぼなく、40才以上という対象の広い制度は、全国に見ても先進的な制度です。

6月の開始から半年余で190件もの申請がありました。

子ども医療費18才まで完全無償化

市議会文教厚生委員会のアンケートでも多くの子育て世代の方が「医療費無償化」を評価していました。子育て負担が重い中、収入の多い少ないに関わらず全ての子どもたち対象の無償化がどれだけ待たれていたのかを実感しました。

ごみ処理 産廃もいれる民設民営

の大型焼却炉建設計画の転換

ごみの減量化に逆行し、公共の役割の放棄につながると反対してきました。専門家による検討委員会での決定を受け、公設で産廃を入れない小型炉へ計画変更がされました。現炉の傷みがひどく、安定したごみ処理ができないと、再来年度からの全量外部搬出も決定しています。このピンチをごみ減量化のチャンスとしてスピード感をもって取り組むべきです。

悲しい・納得いかないこと

ガザのジェノサイドに

声をあげられない市議会

ガザの戦闘中止、紛争の平和的解決を求める意見書は自民党派の反対で出すことができません。静岡、焼津、藤枝など意見書をあげているのは対照的です。

学校給食費保護者負担

1.2%増額の決定

物価高騰の最中、今年度予算に値上げが盛り込まれました。全国491自治体が給食費無償化に踏み切っている中で県内でも高い給食費に増額した掛川市。

国の交付金を使い値上げ分の今年度補填をしましたが、だったら最初から据え置きと言いたい。

学校統廃合・再編計画の決定

公共施設削減は国策として進められています。学校が減って一番コストカットできるのは実は国です。ここが見えないと子どもたちの再編という理由付けで納得してしまいます。

学校がなくなった地域が子育てしにくい衰退する地域になってしまっているのがわかっていて、押し切られていく、その先が心配です。

自民党のデタラメぶり 疑惑の方程式

開催年	パーティー収入	販売枚数(推計)	購入者数
2017年	2億98万円	1万49枚	6784人
2018年	2億802万円	1万401枚	7021人
2019年	1億5338万円	7669枚	5177人
2020年	1億262万円	5131枚	3464人
2021年	1億2万円	5001枚	3376人
2022年	9480万円	4740枚	3200人

(赤旗日曜版 | 2月24日号より)

パーティー券購入者数をねつ造? 新疑惑です。6年間の購入者の人数がパーティー収入を2万円(1枚)で割った数字に0.675を掛けた数字と一致しています。二階派は×0.8です。(4年間)

多額の政党助成金を受け取りながら政治資金パーティーを繰り返し報告すらまともにしない。こんな腐った政治はごめんです。

自民党政治を終わらせて
2024年を希望ある年に!



市役所に飾られたシクラメン
協定を結ぶ群馬県明和町のプレゼント

平日を含めた

中学校部活動の地域移行

もう決まったこととして3年後は完全移行と説明していますが、平日を含めた完全移行など他自治体も国も今言っていないです。

条件が整わず無理なことを強行すれば、しわ寄せは子どもと保護者、地域にきます。決して学校の先生だけの問題ではありません。